

し、酢酸 (100) を加え、pH を 4.5 に調製した液 (移動相 A) 及び塩化ナトリウム 29.2 g を移動相 A 1000 mL に溶かした液 (移動相 B)。

送液：毎分 0.8 mL で送液するとき、非保持たん白質の保持時間が約 3 分に、酵素たん白質の保持時間が約 19 分になるように、試料注入後直ちに移動相 A から移動相 B への直線濃度勾配となるように送液し、その後は移動相 B を送液する。

カラムの選定： β -ラクトグロブリン 15 mg を水 4.5 mL に溶かし、シトシン溶液 (1 → 5000) 0.5 mL を加え、カラム選定用溶液とする。カラム選定用溶液 15 μ L につき、上記の条件で操作するとき、シトシン、 β -ラクトグロブリンの順に溶出し、その分離度が 4 以上のものを用いる。

検出感度：カラム選定用溶液 15 μ L から得た β -ラクトグロブリンのピーク高さが 5 ~ 14 cm になるように調整する。

面積測定範囲： β -ラクトグロブリンの保持時間の約 1.4 倍の範囲

乾燥減量 5.0 % 以下 (0.5 g, 減圧, 酸化リン (V), 4 時間)。

強熱残分 2.0 % 以下 (1 g)。

定量法

(i) 基質溶液 2-ニトロフェニル- β -D-ガラクトピラノシド 0.603 g を pH 4.5 のリン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液に溶かし、100 mL とする。

(ii) 操作法 本品約 0.15 g を精密に量り、水を加えてよく振り混ぜて溶かし、正確に 100 mL とし、室温で 1 時間放置する。この液 2 mL を正確に量り、pH 4.5 のリン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液を加えて正確に 100 mL とし、試料溶液とする。試料溶液 0.5 mL を試験管に正確に量り、 30 ± 0.1 °C で 10 分間保温した後、あらかじめ 30 ± 0.1 °C で保温しておいた基質溶液 0.5 mL を正確に加え、直ちに振り混ぜる。 30 ± 0.1 °C で正確に 10 分間反応させた後、炭酸ナトリウム試液 1 mL を正確に加え、直ちに振り混ぜ反応を停止する。この液に水 8 mL を正確に加えて混和し、試料呈色液とする。別に、pH 4.5 のリン酸水素二ナトリウム・クエン酸緩衝液 0.5 mL を正確に量り、試料溶液と同様に操作し、空試験呈色液とする。試料呈色液及び空試験呈色液につき、水を対照として、紫外可視吸光度測定法により試験を行い、波長 420 nm における吸光度 A_T 及び A_B を測定する。

本品 1 g 中の単位 = $\frac{A_T - A_B}{0.459} \times \frac{1}{10} \times \frac{1}{W}$
0.459 : o-ニトロフェニル 1 μ mol/10 mL の吸光度
W : 試料溶液 0.5 mL 中の試料の量 (g)

単位：上記の操作条件で 1 分間に 2-ニトロフェニル- β -D-ガラクトピラノシド 1 μ mol を加水分解する酵素量を 1 単位とする。

貯法 容器 気密容器。

カリ石ケン

Potash Soap

本品は定量するとき、脂肪酸として 40.0 % 以上を含

む。
製法

| | |
|---------|--------|
| 植物油 | 470 mL |
| 水酸化カリウム | 適量 |
| 常水又は精製水 | 適量 |
| 全量 | 1000 g |

けん化に必要な量の「水酸化カリウム」に「常水」又は「精製水」適量を加えて溶かし、この液をあらかじめ加温した植物油に加え、必要ならば「エタノール」適量を添加し、よくかき混ぜながら水浴中で加熱してけん化を続ける。けん化が完了した後、適量の「常水」又は「精製水」を加えて全量を 1000 g として製する。

性状 本品は黄褐色透明粘滑の軟塊で、特異なおいがある。

本品は水又はエタノール (95) に溶けやすい。

純度試験 ケイ酸又はアルカリ 本品 10 g をエタノール (95) 30 mL に溶かし、1 mol/L 塩酸 0.50 mL を加えるとき、液は混濁しない。この液にフェノールフタレイン試液 1 滴を加えるとき、液は赤色を呈しない。

定量法 本品約 5 g を精密に量り、熱湯 100 mL に溶かし、分液漏斗に入れ、希硫酸を加えて酸性とし、冷後、ジエチルエーテル 50 mL, 40 mL 及び 30 mL を用いて順次抽出する。抽出液を合わせ、洗液が酸性を呈しなくなるまで水 10 mL ずつで洗った後、ジエチルエーテル液を質量既知のフラスコに入れ、水浴上でなるべく低温でジエチルエーテルを蒸発して除き、残留物を 80 °C で恒量になるまで乾燥し、質量を量り、脂肪酸の量とする。

貯法 容器 気密容器。

カルナウバロウ

Carnauba Wax

CERA CARNAUBA

本品はカルナウバヤシ *Copernicia cerifera* Mart (*Palmae*) の葉から得たろうである。

性状 本品は淡黄色～淡褐色の堅くてもろい塊又は白色～淡黄色の粉末で、わずかに特異なおいがあり、味はほとんどない。

本品は水、エタノール (95)、ジエチルエーテル又はキシレンにほとんど溶けない。

比重 d_{20}^{20} : 0.990 ~ 1.002

融点: 80 ~ 86 °C

酸価 10.0 以下。ただし、溶媒としてキシレン/エタノール (95) 混液 (2:1) を用いる。

けん化価 78 ~ 95 本品約 3 g を精密に量り、300 mL のフラスコに入れ、キシレン 25 mL を加え、加温して溶かし、エタノール (95) 50 mL 及び正確に 0.5 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 25 mL を加え、以下けん化価の試験を行う。ただし、加熱は 2 時間とし、また、滴定は温時行う。

ヨウ素価 5 ~ 14 (試料は、共栓フラスコを温湯中で振り混ぜて溶かす)

貯法 容器 密閉容器。